

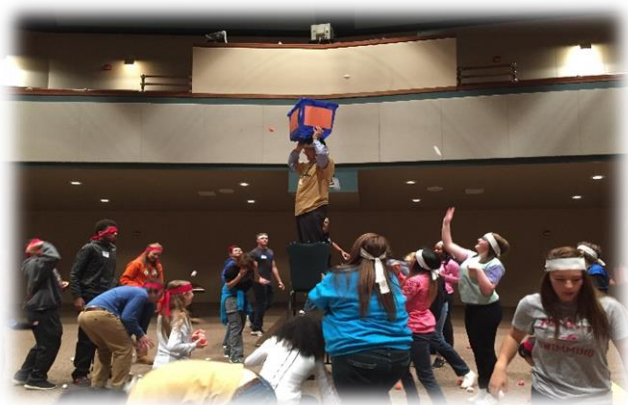
埼玉親善大使・フィンドレー大学平成27年度派遣奨学生

月例報告書・11月 徳永美友

学期末に差し掛かり、クラスメイトと過ごせる日々もあとわずかとなってきました。11月は様々な行事があり、いつも以上にあっという間に時間が過ぎてしまったように感じます。今月の報告書では、Travel the globe、Hancock Country United 5th Grade Gifted Program Students そして Thanksgiving についてお話ししたいと思います。

<Travel the Globe>

Travel the Globeは、高校生に異文化を体験学習してもらうという趣旨で行われています。私を含む Intermediate の全学生と一緒に参加しました。(私が今期受講している英語のコースはレベルごとに Basic、Beginning、Intermediate と分かれており、Intermediate を終わると学部の



授業か、もう一段階上のレベルの英語のクラスに進むかを選ぶことができます。)中国・インド・サウジアラビアなど、世界十数か国から集まった私たち学生と、ディスカッションやアクティビティをしました。私が担当した日本テーブルでは、日本の運動会を開催しました。ラジオ体操から始まり、玉運びや玉入れ(写真)、またお箸を使ったゲームも取り入れました。私たちもチームに加わり、一緒に運動会を楽しむことができました。

<Hancock Country United 5th Grade Gifted Program Students>

このプログラムは、フィンドレー市を擁するハンコック郡内の成績優秀な小学5年生を対象に行われているもので、自分の目で大学を見ることで自分の将来について今から考えさせるという目的があります。キャンパスツアーを行い、Mazza museum やプラネタリウムなどを見学してもらいました。私は、ボランティアとして日本語セッションに参加しました。日本に関するクイズや、日本の挨拶

拶、お箸のゲームなどを用意し、チームごとに競争してもらいました。

限られた時間でいかに日本に興味を持ってもらうか、知ってもらうか、体験してもらうかという点でいずれのイベントも難しかったです。Travel the Globeでは、日本人が日本で普通にしていることを現地の高校生と一緒にしました。今回の企画が彼らにとって有意義な体験学習になっていることを望みます。

Gifted Programは日本では聞いたことのないプログラムで、日本とアメリカの教育の違いを感じました。早いうちから自分の目で色々なものを見、将来を意識することは、自分がやりたいことを明確にし、それを仕事にするための手助けとなります。私の通っている日本の大学にも留学生は多くいますが、留学生を主体としてそれぞれの国を紹介するこのようなイベントはありません。今回のプログラムは、大学外のコミュニティの人と関わるよい機会になりました。高校生や小学生とはプログラムの終わった後にお昼と一緒に食べるなど、私自身とても楽しめました。私が日本で通う大学にもこのようなプログラムができて、国際交流の機会が増えると良いと思います。留学生が学外の人と交わり、異文化理解を進める良い機会に繋がるといいです。



<Thanksgiving>



Thanksgiving holidaysは、友人の家で過ごしました。私の友人はアメリカで生まれ育ちましたが、友人の両親はレバノン出身で、この休暇中にはレバノンとアメリカ、双方の文化を体験できたように感じます。Thanksgiving dayには友人の家族や親族が20人以上集まりました。食卓には七面鳥やマッシュドポテト、パンプキンパイなどとともにレバノン料理が並びました。(写真)どの料理もおいしくいただきました。友人の家族や親戚の方々にも温かく迎え入れていただいたことに何より感謝しています。

最後に、今月の Funday Sunday の写真を挙げたいと思います。テーマは「reach for stars」で、七夕をモチーフに日本のセクションを設けました。

